

「そんなつもりではなかった」～考えてみよう、私たちの思い込み～

最近、テレビや新聞などで「セクハラ」や「パワハラ」問題についての報道をよく見たり聞いたりします。会見での「そんなつもりではなかった」という発言は、どのような意識を反映しているのでしょうか。相手が「嫌な思いをする」ということに気付かなかったのでしょうか。

私たちの身近にも、「そんなつもりではなかった」という場面があるのではないかと思います。例えば、「年配の方には手助けが必要」「子どもには無理」などという思い込み……。もしかすると、このような考えは、相手への思いやりや気配りから出たものかもしれません。しかし、年配の方が必ずしも助けを求めているとは限りませんし、子どもには無理という思い込みは、子どもの可能性を摘んでしまうこともあります。

また、「女性に責任のある仕事は負担になる」という考え方も、良かれと思い、女性に配慮をしたつもりかもしれません。しかし、男女共同参画の視点で見ると、本人の持つ能力を発揮できる環境を奪うことになってはいないでしょうか。性別で役割を決めつけず、誰にでもチャレンジできる場があり、個々の適性を活かせる環境をつくるのが大切です。

一度、私たちの中にある思い込みや固定観念を振り返ってみませんか。

※このコラムは、男女平等推進事業企画・運営協力員が執筆しています。

(次回は10月号に掲載します。)

